

#### 4月21日「ネバーネバーネバーギブアップ！」ルカ福音書 23：56～24：12

イースターおめでとございます！今日はイースターです。イースターはキリスト教の春のお祭りです。何が出て来るかな？たまごやうさぎが登場する可愛いお祭りなんです。たまごは固い殻を破って新しいのちが出てきます。ウサギは春になるとたくさんの子ウサギを連れて冬眠していた穴から出てきます。どちらも命の象徴です。イースターは命のお祭りなんです。ではこの日には何があったのでしょうか？

今から2000年くらい前、せっかくの日曜日に泣きながらお墓に行く人たちがいました。マリアとヨハナ、それから数人の女の人たちでした。みんなイエス様に病気を治してもらってお弟子になった人達でした。何をしに行ったのでしょうか・・・イエス様の遺体に香りの良い油を塗るためです。みんな暗く沈んだ気持ちでした。だって、大好きなイエス様が死んでしまったのです。もう会うこともできない、お話しすることもできません。それに、「ごめんなさい」という気持ちで一杯でした。イエス様が何も悪いことをしていないのに十字架につけられ、殺されるのを助けることが出来なかったからです。みんな自分も一緒に捕まるのが怖くて隠れていたのです。それでも、女のお弟子たちは勇気を振り絞ってお墓に向かいました。一つ、心配なことがありました。それはお墓には大きな石で蓋をしてあったことです。あんな大きな石、女の人の力だけでは動かせません。どうしよう、ひそひそ相談しながらお墓へと向かいました・・・

ところが、お墓の前についてみるとびっくりすることがありました。あの大きくて重たい石が転がっています！急いで中を覗いてみると、中は空っぽです！「どうしよう！？イエス様がいなくなりました。誰かに盗まれたのかしら」マリアたちが慌てていると、突然、真っ白に輝く衣を着た、二人の天使が現われました。天使は言いました。「あの方はここにはおられない。復活されたのだ。十字架につけられて三日目に復活することになっているとイエス様が話しておられたことを思い出さない！」そこで、マリアたちはイエス様が確かにそう言っていたことを思い出しました。そして急いで帰って男のお弟子たちに伝えました。けれども他の弟子たちは誰も信じようとはしなかったのです。

聖書には時々びっくりすることが書いてあります。イエス様は病気を治せたとか、パンを増やせたとか、水の上を歩いたとか。でも一番びっくりするのは死んだ後に復活した事です。イエス様の弟子たちでも最初は信じられなかった！本当にそんなことがあったのかな・・・？

みなさんのなかに大好きな人を亡くしたことがある人はいますか？去年、僕と僕の奥さんが大好きだった大学の先生が天に召されました。とても変わった面白い先生で授業中にアイスを買って一緒に食べたりとか、急に恋愛相談が始まったり。いろんな人のお世話もする人で、エイズという難病の人達の支援をしたり、外国から来た女性たちを助けたり、僕がアメリカの教会に勉強に行かせてほしいとお願いした時は喜んで手配してくれた。僕たちは先生だけれど親しみを込めて「テルちゃん」と呼んでいた。(みんなも僕のことを「あらちゃん」って呼んでもいいよ！)だから先生がなくなったことはとても辛かった。京都でお葬式があったのだけれど僕はとっても申し訳ない気持ちで出かけて行きました。なぜって先生が重い病気で具合が悪いことは分かっていたのに、仕事が忙しくてお見舞いに行けなかったからです。心にずっしりと重たい物を抱えてお葬式の会場の教会に向かいました。

そんな暗い気持ちで向かった教会はとても不思議な場所でした。そこは真っ暗な場所ではなかった。先生の大好きだった色とりどりのお花で綺麗に飾り付けられていた。集まる人は、みんな思い思いに好

きな色の服を着て集まった。そこには色んな人がいた。大人も子どもも日本人も外国人も男性も女性もゲイとかレズビアンの人でも先生にお世話になった人がたくさん集まっていた。皆で先生が残されたメッセージを聞いた。「人って言うのは愛されて愛して生きていくんだよ！」そして思い出を語り合った。僕はもの凄く泣けたけれど、終わった後はすがすがしい気持ちで元気とやる気がでむくむく湧いてきた。その日の式は「お葬式」とは呼ばなかった。「セレブレーションオブライフ（命のお祝い）」と呼んだ。

私たちは、一人一人はとても大切な「いのち」をもっています。これはとっても大切。だって一人にたった一つしかないから。そしてこれが無くなってしまったら、すべてが終わりだと思っています。でも、もしかしたらそうではないのかもしれない。聖書には「**信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である**」という言葉がある。たとえ私たちの身体がなくなってしまうても、愛は残るんじゃないか！本当に心からそう思えた。

「球根の中には」にはこんな歌詞があった。「いのちのおわりはいのちのはじめ、おそれはしんこうに、死は復活に。ついに変えられる永遠の朝」イースターの日に、いのちの終わりは悲しみや絶望だけではないことをイエス様は教えてくれた。マリアたちは思い出した！「**そうだ！まだ終わりじゃない。諦めてはいけない！**」そんな気持ちで他のお弟子たちに伝えに行っただろうか。今日はイースター。皆さんと一緒にイエス様の復活をお祝い出来て心から嬉しく思います。どうか復活のイエス様が、イエス様が私たちに教えてくださった愛が、いつも皆さんと一緒にありますように！

### とりなしの祈り

復活のイエス様、あなたのみ名を褒め讃えます。今日はイースター礼拝です。たくさん子どもたちと大人たちであなたの復活をお祝い出来たことを心から感謝します。あなたはいつも私たちと一緒に居てください。私たちが諦めたり失望したりするとき「もうだめだ！」と諦める時、一緒に居て「これから始まるんだよ」と慰めてくれます。どうか私たちがあなたの復活の力を信じて、毎日を歩んで行けるようにして下さい。

神さま、私たちがあなたから頂きたいのちを大切に生きていけるようにして下さい。今、世界中で希望を失っている人たちのために祈ります。重い病気やケガをしている人、自然災害に遭った人、戦争や争いで傷ついた、貧しく今日の食べ物が無い人、一人ぼっちの人、今、悲しみに暮れている人をあなたが慰めてください。すべての人がいのちを喜んで生きていくことが出来ますように。

神さま、愛光保育園と多度津教会のために祈ります。教会と保育園に集まる一人一人が神さまの祝福の内に過ごすことができますように。

神さま、今日、この礼拝に集まった一人一人を祝福して下さい。進学や職場が変わって新しい環境になった人もいます。どんな場所に居てもあなたがそばにいて力づけてください。今日、ここに集いたくとも集えなかった方のことも覚えます。遠くに病気や高齢のため、仕事が忙しくて来ることが出来なかった一人一人を省みて同じ祝福を与えてください。